



平成26年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年4月30日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 ラックランド

コード番号 9612 URL <http://www.luckland.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 望月圭一郎

問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員管理本部長 (氏名) 天明恒男

TEL 03-3377-9331

四半期報告書提出予定日 平成26年5月15日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年12月期第1四半期の連結業績(平成26年1月1日～平成26年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年12月期第1四半期	5,828	76.3	△17	—	△13	—	△35	—
25年12月期第1四半期	3,305	△12.5	△45	—	△49	—	△32	—

(注) 包括利益 26年12月期第1四半期 △123百万円 (—%) 25年12月期第1四半期 86百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年12月期第1四半期	△4.80	—
25年12月期第1四半期	△4.46	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年12月期第1四半期	12,858	4,285	33.1	578.88
25年12月期	13,498	4,519	33.2	610.67

(参考) 自己資本 26年12月期第1四半期 4,249百万円 25年12月期 4,483百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年12月期	—	0.00	—	15.00	15.00
26年12月期	—	—	—	—	—
26年12月期(予想)	—	0.00	—	15.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年12月期の連結業績予想(平成26年1月1日～平成26年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	10,524	23.9	75	△59.6	80	△58.7	42	△65.0	5.73
通期	23,354	10.6	540	3.6	541	2.5	310	7.5	42.23

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年12月期1Q	7,864,000 株	25年12月期	7,864,000 株
② 期末自己株式数	26年12月期1Q	522,643 株	25年12月期	522,623 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年12月期1Q	7,341,367 株	25年12月期1Q	7,310,677 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、2012年末に短期サイクルの底を迎えた中、新たなる局面に入ってきております。OECDの景気先行指数においても日本の景気先行指数は2010年から横這い圏の動きが続いて伸び悩んでおったものの、2012年8～10月(99.9)を底に上昇に転じて、2013年末には2006年の天井にほぼ並んでおります。当第1四半期においては2月の大雪の影響もあって3ヶ月連続の101.2と上昇は一服しておりますが、年後半以降、景気先行指数は上昇基調が続くと見込んでおります。また内閣府の景気ウォッチャー調査においても3月の現状判断指数は消費税引き上げ前の駆け込み需要もあり歴史的水準に高まっていますが、先行き判断指数は消費税引き上げの影響から急落しており4～6月期は伸び悩みが見込まれております。しかしながら、今後企業部門主導で上昇していく局面が見込まれておることから年後半には再度50超が定着すると思われれます。

当社の取引先と関連が深い小売、飲食業界においては、第3次活動指数にも表れているように、小売業は2011年末から上昇局面の中にあるものの飲食サービス業においては2010年から横ばい圏内にありましたが、4～6月期は伸び悩みの可能性もありますが年後半には同様に上昇基調に入ると見込まれます。

今後、安倍内閣の下で脱デフレ・日本経済再生を目標とする『金融緩和、財政政策、成長戦略』が実施され、米国・新興国を中心とする世界経済の回復もあって、日本経済・株式市場は長期低迷を脱却して本格的な拡大・上昇局面に入りつつあります。日銀は今後マネタリー・ベース残高を拡大することを表明していることから、株式市場は上昇基調が続く、街角景気判断DI(現状判断指数・先行き判断指数)は55超が定着して2000年代を上回る局面が見込まれます。

そのような環境の中、当社グループは対処すべき課題である「主要マーケットにおける競争力強化と力を活かせるマーケットを開拓し、どのような環境下においても会社として成長していける基盤を構築すること」の実現に向け、顧客数やメンテナンス店舗数の増大ならびに、それに伴う売上高の増大に向け、注力して参りました。

その結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高58億2千8百万円、営業損失1千7百万円、経常損失1千3百万円、四半期純損失3千5百万円となりました。

関連部門別の販売高及び営業概況は次のとおりであります。

関連部門の名称	前第1四半期連結累計期間 (百万円)	当第1四半期連結累計期間 (百万円)	前年同四半期比 (%)
スーパーマーケット関連部門	841	2,433	189.1
フードシステム関連部門	2,148	3,073	43.0
保守メンテナンス部門	314	321	2.1
計	3,305	5,828	76.3

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

《スーパーマーケット関連部門》

当社グループのスーパーマーケット関連部門の主要顧客である飲食料点小売業界に属する中堅企業(中堅チェーン企業や複数店舗を有する企業)は震災以降、価格に関して上昇傾向にあるとともに、節電意識の高まりから経費の削減にも繋がっている為、堅調に推移しておりました。全国のスーパーマーケットの状況を表しているスーパーマーケット販売統計調査においても、3月には全店昨対比で12ヶ月連続、食品関係においては10ヶ月連続、既存店昨年対比でも6ヶ月連続の100%越えの売上を達成しており堅調に推移しておりました。ただその中において、企業間の業績の差が大きく見受けられ、その結果、M&Aによる業界再編が急速に進んでおります。その様な中、業界における店舗再編の動きが活性化しており、企業の出店・改装意欲は引き続き継続しております。

このような状況下、継続的に不動産情報を提供すると共に、自社の蓄積した設計力や技術力を駆使したエンジニアリングセールスを積極的に展開し、営業活動を行って参りました。また各店舗へ配送を行う物流施設に関しても積極的な営業を展開し、新規物件の建築から既存施設の設備改修、省エネ提案等にも積極的に活動を行って参りました。

その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は24億3千3百万円(前年同四半期比189.1%増)となりました。

《フードシステム関連部門》

当第1四半期におけるフードシステムに関連する企業の業績は、2月の大雪による2013年に続き、上昇局面でありました。飲食店企業の全業態トータルの店舗数は23ヶ月以上前年同期比100%以上を超え、企業の出店・改装意欲の旺盛さを示しております。このような環境の中、店舗への積極的な営業活動を進めただけでなく、商業施設のデベロッパーや食品加工センターへの営業活動も広めて参りました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は30億7千3百万円（前年同四半期比43.0%増）となりました。

《保守メンテナンス部門》

店舗メンテナンス事業におきましては旧来からの店舗設備の機器メンテナンスを充実させるとともに、旧メンテナンス部を「CS（カスタマー・サティスファクション）サポート部」と名称を変更し、よりお客様の満足をサポートしていく部署として進化させる為の動きをしております。その一環として全国における営業所網の整備を行うとともに、地域密着の営業活動にも力を入れております。当第1四半期においては郡山営業所を開設し、更なる地域密着の営業活動を進めております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は3億2千1百万円（前年同四半期比2.1%増）となりました。

（参考資料）事業分野別の売上高

当社グループでは事業内容をより明確化するために、事業分野別売上高状況を販売高にて区分しております。販売高の状況及び各事業の概況は、以下のとおりであります。

事業分野の名称	前第1四半期連結累計期間 (百万円)	当第1四半期連結累計期間 (百万円)	前年同四半期比 (%)
店舗施設の企画制作事業	2,329	4,209	80.7
商業施設の企画制作事業	214	160	▲25.0
食品工場、物流倉庫の企画制作事業	97	852	776.1
店舗メンテナンス事業	229	243	6.2
省エネ・CO2削減事業	145	85	▲41.2
建築事業	290	277	▲4.5
計	3,305	5,828	76.3

（注） 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

《店舗施設の企画制作事業》

当社グループの中心事業である店舗施設の企画制作事業においては「現場力」というキーワードの下、積極的な活動を進めて参りました。企画・設計・施工に関する現場力を内製化することにより、社内においてチームを組成し一丸となることで、受注率ならびに粗利率の向上に努めて参りました。昨年度に続き、本年度も受注率に関しては大きな結果を残すことが出来ました。しかし、粗利率に関する改善は進みましたが、まだ満足できるものではなく、更なる改善を図って参ります。

その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は42億9百万円（前年同四半期比80.7%増）となりました。

《商業施設の企画制作事業》

当第1四半期連結累計期間における商業施設の企画制作事業においては、1つ目の分野である内装管理業務、及び共用部工事に関しては、今後当社グループが積極的な拡大を図る重要分野の一つとして、活動を進めております。この分野においても本年度、売上高は減少したものの、顧客数は増大しており、将来の基幹分野として拡大に注力して参ります。また、もう1つの重要な分野である商業施設の建築設備の分野に関しても順調に拡大してきております。

その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は1億6千万円（前年同四半期比25.0%減）となりました。

《食品工場、物流倉庫の企画制作事業》

当社の基幹技術である冷凍冷蔵技術を活かす重要分野であります。食品工場、物流倉庫の企画制作事業に関しては、近年、顧客企業の発注方法が変化してきております。当社グループとしては、ゼネコン、もしくはエンジニアリング会社からの受注を目指し、営業戦略の変更を行いながら、さらなる基幹技術の強化を図るべく、積極的に活動を行いました。

その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は8億5千2百万円（前年同四半期比776.1%増）となりました。

《店舗メンテナンス事業》

店舗メンテナンス事業におきましては旧来からの店舗設備の機器メンテナンスを充実させるとともに、旧メンテナンス部を「CS（カスタマー・サティスファクション）サポート部」と名称を変更し、よりお客様の満足をサポートしてく部署として進化させるための動きをしております。その一環として全国における営業所網の整備を行うとともに、地域密着の営業活動にも力を入れております。当第1四半期においては郡山営業所を開設し、更なる地域密着の営業活動を進めております。

その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は2億4千3百万円（前年同四半期比6.2%増）となりました。

《省エネ・CO2削減事業》

東日本大震災以降、省エネルギーへの意識は高まっております。そのような中、2010年に開発した冷蔵ショーケースにおける棚下LED照明の出荷も55,000本を超えてきております。また省エネエアコン・レンタル事業も新たなチェーンとの契約も締結し、堅調に推移しております。

その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は8千5百万円（前年同四半期比41.2%減）となりました。

《建築事業》

建築事業においては、従来耐震診断及び補強工事を中心に受注活動を進めて参りましたが、この数年間の取り組みによる実績と技術力の積み上げにより、数多くの建築物件の引き合いを頂けるようになり、今後大きな伸びが期待できる分野となって参りました。当第1四半期においては物流施設の建築を竣工いたしました。物流倉庫の企画制作事業に売上は計上しております。今後、設計ならびに施工体制をより充実させ、大きな柱へ成長させていきたいと考えております。

その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は2億7千7百万円（前年同四半期比4.5%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は、128億5千8百万円と前連結会計年度末と比べ6億4千万円の減少となりました。

流動資産は、89億9千8百万円と前連結会計年度末と比べ5億9千9百万円の減少となりました。これは法人税の支払や仕入債務決済による現金及び預金の減少及び第1四半期連結累計期間での多数の大型案件の引渡による仕掛品の減少が主な要因であります。

固定資産は、38億5千9百万円と前連結会計年度末と比べ4千1百万円の減少となりました。これは保有株式の株価下落による投資有価証券の減少が主な要因であります。

(負債の部)

流動負債は、83億9千3百万円と前連結会計年度末と比べ4億4千4百万円の減少となりました。これは法人税の支払による未払法人税等の減少及び第1四半期連結累計期間に引渡した工事売上代金にかかる前受金の減少が主な要因であります。

固定負債は、1億7千8百万円と前連結会計年度末と比べ3千8百万円の増加となりました。これは、繰延税金負債の増加が主な要因であります。

以上の結果、負債の部は85億7千2百万円と前連結会計年度末と比べ4億6百万円の減少となりました。

(純資産の部)

純資産の部は、42億8千5百万円と前連結会計年度末と比べ、2億3千3百万円の減少となりました。これは剰余金の配当及び保有株式の株価下落によるその他有価証券評価差額金の減少が主な要因であります。

なお、自己資本比率は33.1%と前連結会計年度末より0.1ポイント減少しております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年2月14日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,805,954	3,172,899
受取手形及び売掛金	4,466,746	4,491,926
リース債権	77,027	102,910
商品	29,603	1,158
仕掛品	760,498	588,597
原材料及び貯蔵品	184,246	286,763
その他	273,577	354,279
貸倒引当金	△30	△29
流動資産合計	9,597,623	8,998,506
固定資産		
有形固定資産		
土地	1,694,385	1,694,385
その他	1,234,265	1,238,564
減価償却累計額	△837,664	△834,432
その他(純額)	396,600	404,131
有形固定資産合計	2,090,986	2,098,517
無形固定資産		
のれん	78,265	76,442
その他	37,908	38,984
無形固定資産合計	116,173	115,427
投資その他の資産		
投資有価証券	1,414,947	1,353,984
その他	306,948	316,919
貸倒引当金	△27,951	△25,166
投資その他の資産合計	1,693,944	1,645,738
固定資産合計	3,901,104	3,859,682
資産合計	13,498,728	12,858,188

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,226,915	6,310,538
短期借入金	1,450,000	1,450,000
未払法人税等	273,279	11,878
賞与引当金	1,709	12,443
受注損失引当金	12,319	14,402
その他	874,479	594,570
流動負債合計	8,838,702	8,393,832
固定負債		
役員退職慰労引当金	20,000	20,000
その他	120,741	158,898
固定負債合計	140,741	178,898
負債合計	8,979,444	8,572,731
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,524,493	1,524,493
資本剰余金	1,716,060	1,716,060
利益剰余金	1,174,034	1,028,670
自己株式	△447,335	△447,349
株主資本合計	3,967,253	3,821,875
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	515,426	427,486
為替換算調整勘定	442	367
その他の包括利益累計額合計	515,868	427,854
新株予約権	36,291	36,291
少数株主持分	△129	△563
純資産合計	4,519,283	4,285,457
負債純資産合計	13,498,728	12,858,188

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年3月31日)
売上高	3,305,266	5,828,675
売上原価	3,021,946	5,458,509
売上総利益	283,320	370,166
販売費及び一般管理費	329,020	387,296
営業損失(△)	△45,700	△17,130
営業外収益		
受取利息	331	1,770
持分法による投資利益	91	1,906
仕入割引	3,493	4,702
不動産賃貸料	3,979	2,348
その他	1,466	2,464
営業外収益合計	9,363	13,193
営業外費用		
支払利息	2,907	2,664
不動産賃貸原価	2,157	1,343
業務委託費	5,398	5,101
その他	2,228	795
営業外費用合計	12,691	9,905
経常損失(△)	△49,028	△13,843
特別利益		
固定資産売却益	311	6
製品保証引当金戻入額	1,090	1,170
新株予約権戻入益	140	—
投資有価証券売却益	9,686	—
特別利益合計	11,227	1,176
特別損失		
固定資産除却損	—	720
貸倒損失	0	—
特別損失合計	0	720
税金等調整前四半期純損失(△)	△37,801	△13,388
法人税、住民税及び事業税	2,935	4,756
法人税等調整額	△8,119	17,534
法人税等合計	△5,184	22,291
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△32,617	△35,679
少数株主損失(△)	—	△435
四半期純損失(△)	△32,617	△35,243

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成25年1月1日 至 平成25年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成26年1月1日 至 平成26年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失 (△)	△32,617	△35,679
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	118,865	△87,939
為替換算調整勘定	△117	△73
その他の包括利益合計	118,747	△88,012
四半期包括利益	86,130	△123,692
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	86,130	△123,257
少数株主に係る四半期包括利益	—	△434

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。